

JVCKENWOOD



会社案内 2026

Move Forward



株式会社 JVCケンウッド
〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地
<https://www.jvckenwood.com/jp/>



●本誌に関するお問い合わせ先
企業コミュニケーション部 広報グループ
E-mail : pr_info@jvckenwood.com

©2026 JVCKENWOOD Corporation JK0059

株式会社 JVCケンウッド



人々に喜びや驚きを与え、心を豊かにする“感動”
生活の基盤となる安全や信頼を生み出す“安心”

私たちは、「通信」「映像」「音響」の3つの技術力と、顧客ニーズを起点とする「デザイン経営」を強みとし、
「KENWOOD」「Victor」「JVC」の3つのブランドを通じて、
人々の暮らしを豊かにする“感動と安心”を届け、より良い未来を創造していきます。

感動と安心を世界の人々へ

Creating excitement and peace of mind for the people of the world



KENWOOD

 Victor

JVC



JVCケンウッドグループは、企業理念「感動と安心を世界の人々へ」のもと、長年培ってきた「通信」「映像」「音響」の技術と「デザイン経営」を強みとし、新たな価値を創出することで、人々の生活を豊かにする製品・サービスを世界中の皆さまにお届けしています。

新たに策定した中期経営計画「VISION2030」では、変化を力に変え、挑戦を続ける私たちの意思を込めて「Move Forward」をテーマに掲げました。成長の柱とする無線システム事業への積極投資を進めて盤石な経営基盤を築くとともに、全事業において収益性向上を目指していきます。

JVCケンウッドは、2008年の日本ビクターとケンウッドの経営統合を経て、誕生しました。2026年はケンウッド創業80周年、2027年は日本ビクター創業100周年、2028年にはJVCケンウッド設立20周年を迎えます。これまで当社グループを支えてくださった全てのステークホルダーの皆さまに深く感謝申し上げます。

これからも持続可能な社会の実現に向けて取り組み、企業価値の最大化を図り、「たくましさ」と「したたかさ」を併せ持つエクセレントカンパニーへの飛躍を目指していきます。

代表取締役 会長執行役員 CEO

江口祥一郎

代表取締役 社長執行役員 COO

鈴木 昭

新中期経営計画「VISION2030」

2026年5月、事業の長期性と市場構造の変化を踏まえた長期視点の経営計画として、5力年の中期経営計画「VISION2030」を新たに策定しました。

中期経営計画「VISION2030」はこちら
<https://www.jvckenwood.com/jp/corporate/policy/>



企業理念

感動と安心を世界の人々へ

長期ビジョン

「たくましさ」と
「したたかさ」を併せ持つ
エクセレントカンパニーへの飛躍

利益ある成長とグローバルでの
社会課題解決に貢献し、
企業価値の向上と持続可能な
社会の実現をめざす

VISION2030

Move Forward

持続的な価値創造の追求

事業ポートフォリオ戦略と
資本コストと株価を
意識した経営の進化

VISION2025

変革と成長

成長モメンタムの加速

「VISION2030」では、エクセレントカンパニーへの飛躍に向けて、
持続的な価値創造を支える基盤を強化し、「めざす水準」を早期に達成します

めざす水準

売上収益

5,000 億円以上

事業利益率

10 %以上

S&S売上構成比

50 %以上

「VISION2030」経営指標

売上収益

4,100 億円以上

事業利益率

9 %以上

S&S売上構成比

35 %以上

主要施策

事業ポートフォリオ戦略に
基づく成長事業への注力

資本効率を
意識した経営

持続的成長を支える
経営基盤の強化

サステナビリティ
経営の深化

3つの事業分野の戦略

セーフティ&
セキュリティ分野

無線システム事業
業務用システム事業

成長を牽引する無線システム事業
において、M&Aを含めた積極的な
投資を図り、さらなる事業拡大を
目指します

モビリティ&
テレマティクスサービス分野

OEM事業
アフターマーケット事業
テレマティクスサービス事業

OEM事業の成長領域への重点的
な投資と効率化を進め、事業利益
率の向上を図ります

エンタテインメント
ソリューションズ分野

エンタテインメント事業
メディア事業

エンタテインメント事業を期待・
挑戦領域と位置付け、さらなる成長
を図るとともに、メディア事業の
収益性向上に取り組みます

業績ハイライト (2025年度)

売上収益 3,569 億円

エンタテインメント
ソリューションズ 16%

セーフティ&
セキュリティ 27%

モビリティ&
テレマティクスサービス 55%

事業利益 209 億円

エンタテインメント
ソリューションズ 12%

モビリティ&
テレマティクスサービス 26%

セーフティ&
セキュリティ 61%

4 | JVCKENWOOD 会社案内 2026

JVCKENWOOD 会社案内 2026 | 5

セーフティ& セキュリティ分野

人々の命と暮らしを守り、安心・安全なまちづくりに
寄与する製品やソリューションを展開しています。



モビリティ& テレマティクスサービス 分野

安心・安全とともに、移動する楽しさや感動を支える
製品やサービス、ソリューションを展開しています。



無線システム事業

国内外の警察・消防・救急などの「公共安全市場」や、鉄道・空港・教育機関などの「民間市場」向けに業務用無線システムを提供しています。また、LTEやWi-Fiを活用し全国規模で通信できるIP無線機を展開しています。そのほか、飲食店やアパレル店舗、建設工事現場などに向けて免許や資格がなくても使用できる特定小電力トランシーバーや、祖業事業のアマチュア無線機、林業向けソリューションなども提供しています。



業務用デジタル無線システム“Viking”シリーズ
(中央)携帯型 (両端)車載型

IP無線機

特定小電力トランシーバー
“DEMITOSS”シリーズ

デジタル簡易無線中継システム

アマチュア無線機

業務用システム事業

国内向けに非常・業務用放送システムや監視カメラなどのセキュリティシステムをグループ会社のJVCケンウッド・公共産業システムを通じて提供しています。



非常・業務用
放送システム

セキュリティカメラ
システム

北米の過酷な現場で認められた“確かな技術力”—デジタル無線機「VP8000」

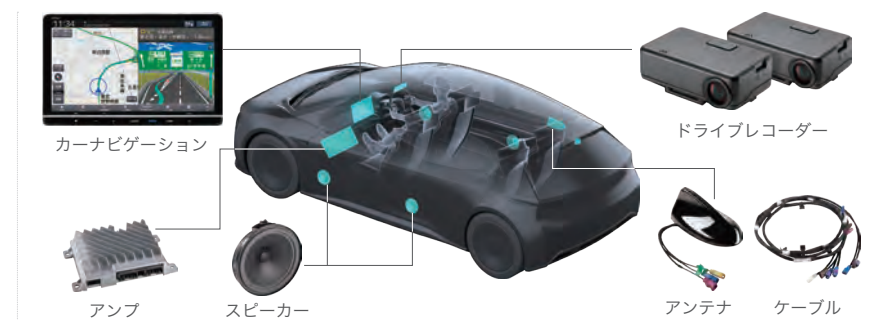
「『現場で本当に役に立っているよ』と聞いて、開発に込めた想いが報われました」
米国ミシガン州の消防局から「気温がマイナス30℃を下回る極寒の環境下で、凍り付いた状態の無線機が使えた」との声が届きました。
北米向け業務用デジタル無線機の旗艦モデルである「VP8000」。その開発において、何よりも大切にできたのは「人の安全を守る現場で安定してつながること」です。消防や警察の現場で求められる品質基準は非常に厳しいため、低温、衝撃、水没など、あらゆる状況を想定しなくてはなりません。「VP8000」は、エンジニアが現地で顧客から実情をヒアリングし、過酷な環境に耐え得る性能を実現しました。
「私たちの技術が地域の人々の安心と安全を支えている——それが何よりの誇りです」
現場の最前線で認められた“確かな技術力”を積み重ね、これからも信頼ある製品を開発していきます。



技術本部 構造設計部 マネージャー

OEM事業

大手自動車メーカー向けに、国内ではカーナビゲーションやドライブレコーダー、海外ではディスプレイオーディオやアンプ、スピーカー、アンテナ、ケーブル、レンズモジュールなどを提供しています。グローバル市場の多様なニーズに対応するモビリティソリューションを展開しています。



アフターマーケット事業

カー用品店や販売代理店向けに、国内ではカーナビゲーション“彩速ナビ”シリーズ、ドライブレコーダーなど、海外ではディスプレイオーディオやカーオーディオ、アンプ、スピーカーなどを提供しています。KENWOODおよびJVCブランドを通じて、快適なカーライフを支える製品を展開しています。



カーナビゲーション
“彩速ナビ”シリーズ

デジタルルームミラー型
ドライブレコーダー

ディスプレイオーディオ

テレマティクスサービス事業

業界トップクラスの販売実績を持つ通信型ドライブレコーダーを損害保険会社などに提供しています。



通信型ドライブレコーダー

開発陣が追求した映像美—“彩速ナビ”「MDV-MX12F」

「“彩速ナビ”ユーザーに“これまでにない映像体験”を提供する——それが私たちのミッションでした」
業界で初めて「Mini LED」を採用した高精細HDパネル「ダイヤモンドアレイ ディスプレイ」を搭載するフラッグシップモデル「MDV-MX12F」。このディスプレイの開発には、仕様を決める段階から液晶メーカーとタッグを組んで一緒に作り込むという特別な体制で挑みました。
「『Mini LED』と『量子ドットフィルム』という2つの技術を組み合わせることで映像の表現力が大きく向上しました。最もこだわったのは“人の目で綺麗に見える画作り”です。黒の深みと色域の広さを生かし、より豊かな色彩で臨場感ある映像表現を追求しました」
開発陣が理想とする映像美を実現した新世代の“彩速ナビ”を通じて、ユーザーの皆さまに新たな感動のカーナビライフをお届けします。



技術本部 回路設計部

エンタテインメント ソリューションズ分野

音楽や映像を通じて人々の心や生活を豊かにする
コンテンツや製品・ソリューションを展開しています。



エンタテインメント事業

数多くの人気アーティストの楽曲や映像
コンテンツのデジタル配信、CD/DVD/
Blu-ray/パッケージの販売に加え、イベン
ト開催やライブハウス「Veats Shibuya」
の運営、ピクスタジオの運営、グッ
ズ販売などの関連ビジネスを幅広く
展開しています。



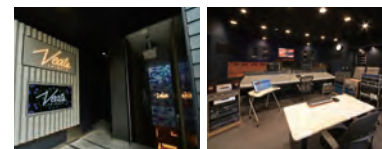
サザンオールスターズ



MILK



イベント開催



ライブハウス/スタジオ運営

音楽・映像コンテンツ

メディア事業

ヘッドホン、イヤホン、オーディオシス
テム、ホームシアタープロジェクターな
どの音響・映像機器を提供しています。
また、フライトシミュレーター向け業務
用プロジェクターなどのソリューション
ビジネスを展開しています。



ヘッドホン/
イヤホン



オーディオシステム



ホームシアター
プロジェクター



フライト
シミュレーター

史上最高の“WOOD”サウンドに挑んだ技術者のサイドストーリー—ワイヤレスイヤホン「WOOD master」

「ようやく抜本的な音質改善に手を付けられるな、やってやるぞ!」

Victorワイヤレスイヤホン史上最高音質を誇るWOODシリーズのフラッグシップモデル「WOOD master」
の開発にあたり、商品企画部門から出されたオーダーは「これまでのWOODを超えてほしい」。しかし、美し
い響きの核となる“木”の振動板の製法は音質的な限界も見えていました。そこで、振動板の素材を一から
見直し、木を原料とするパルプにアフリカンローズウッドを混ぜ合わせるという新しい発想のもと「ハイブ
リッドWOODドライバー」を生み出しました。

さらに、音質改善と小型化の両立にも挑戦。「小型化した筐体サイズで性能を維持するのは容易では
ありませんでしたが、内部構造や部品を見直し、新ドライバーを搭載できるよう工夫を重ねました」

装着テストを繰り返して装着感にも徹底的にこだわり、使い心地の良さも追求。

「WOOD master」は、“史上最高”に挑んだ技術者たちの想いとともに、感動を届けています。



技術本部 構造設計部
(左:商品開発担当、右:音質担当者)

未来を見据えた技術開発

技術開発の基本戦略として「顧客価値を起点に先端技術で人と
社会の“つながり”を再発明する」を掲げています。顧客や市場の

ニーズを出発点とし、事業戦略・技術戦略・知財戦略を三位一体で
推進することにより、競争力と収益力の強化につなげていきます。

基本戦略「顧客価値を起点に先端技術で人と社会の“つながり”を再発明する」

顧客現場



通信・映像・音響・UI/UX・セキュリティ

人々が暮らす“現場”で必要とされる価値を起点に、
その価値を最も力強く支える技術を選び抜く



技術戦略

人とのつながり

新世代UI/UX基礎技術
エッジ処理技術

爆発的な通信量の増加

次世代無線通信
次世代光ネットワーク

処理能力の劇的な高速化

AI
セキュリティ
近未来コンピューティング

事業戦略

知財戦略

研究開発を担う
3つの技術組織

未来創造研究所

当社の事業と親和性があり、将来の強みになるポテンシャルを持つ技術
を再構築し、次世代の基礎開発に必要な技術の確立に取り組むことで
企業価値の向上につなげる。

イノベーション デザインセンター

3年以内の社会実装と収益化を目指す新規事業を開拓する。顧客ニーズ
を掘り起こし、当社グループの技術、外部知見を融合し、新たな価値や顧客
体験を創出する。

技術本部

通信・映像・音響をはじめとする複数のコア技術を統合し、顧客ニーズに
応える開発をする。機能統合により機動性の高い組織運営と人材育成に
よる技術基盤の強化を通じて、変化の激しい市場に迅速に対応する。

アイデアの創出とスピーディーな開発を実現する環境・検証施設



JKC PLAZA

床を掘った構造で気軽に
立ち寄りやすく、アイデア
の議論やビッチ、イベント
などができるエリアです。



電波暗室

車が入る大規模施設を
含めた3つの電波暗室を
備えています。車載機器や
無線機器の実験、各種製
品のノイズ試験・測定を
行います。



無響室

壁、天井、床の部屋全面に
吸音材を設置し、音の反射
を最小限に抑えた施設で
す。音響機器の測定や性能
評価を行います。



防水試験室

雨や放水などの環境を再
現し、防水性能を評価する
施設です。無線機器などの
製品内部に水が侵入して
不具合が発生しないか、
試験後に正常に動作するか
を検証します。

サステナビリティ経営の深化

「利益ある成長」と「グローバルでの社会課題解決」を両輪とするサステナビリティ経営

JVCケンウッドグループは、新中期経営計画「VISION2030」の策定に合わせて、サステナビリティ基本方針として「利益ある成長とグローバルでの社会課題解決に貢献し、企業価値の向上と持続可能な社会の実現をめざす」を掲げ、マテリアリティ（経営の重要課題）を再特定しました。

新中期経営計画に基づき、マテリアリティへの取り組みを事業と一体で推進し、サステナビリティ経営を深化させることで、経済価値と社会価値の両立による持続的な企業価値向上を目指していきます。

企業価値の向上・持続可能な社会の実現



JVCケンウッドグループの5つのマテリアリティとサブマテリアリティ

JVCケンウッドグループは、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献するために、当社グループが解決に取り組む5つのマテリアリティ（経営の重要課題）と、それに紐づくサブマテリアリティを

再特定しました。これらに連動した取り組みテーマとKPIを設定し、推進状況をモニタリングすることで課題解決に向けた取り組みの実効性を向上させていきます。

感動と安心がつながる豊かな社会の実現

- ▶ 安心・安全で生き生きとしたまちづくり
- ▶ 安全・快適で豊かな移動体験の創出
- ▶ 豊かな心や生活の実現
- ▶ ものづくり改革
- ▶ イノベーションの加速
- ▶ 顧客ロイヤリティの向上

責任あるサプライチェーンの構築

- ▶ 人権の尊重
- ▶ サステナビリティ調達の推進

人的資本経営の促進

- ▶ ダイバーシティ&インクルージョン
- ▶ 従業員の活躍推進
- ▶ AI人材強化と責任ある活用

環境への貢献

- ▶ 脱炭素社会の実現
- ▶ 循環型社会の実現

持続的成長を支えるガバナンス

- ▶ コーポレート・ガバナンスの高度化
- ▶ 情報セキュリティ管理の強化
- ▶ リスクマネジメントの強化



安心・安全で生き生きとしたまちづくり
鹿島アントラーズFCと進める
地域共助

茨城県鹿嶋市において、鹿島アントラーズFCや鹿嶋市と連携し、スタジアムを核とした地域の無線通信網の構築を推進しています。広域で安定した通信環境を整備することで、円滑な試合運営に加え、地域社会「共助」の仕組みづくりにも貢献していきます。

*JVCケンウッドは鹿島アントラーズFCとクラブパートナー契約を締結しています。



日頃から人々がつながり、支え合う地域の「共助コミュニティ」の基盤づくりへの貢献を通じて、安心・安全なまちづくりに取り組んでいます。



国内無線システム営業部



豊かな心や生活の実現/環境への貢献
“安心”して長く使える
フラッグシップイヤホン

Victorブランドの「WOOD master」は、“感動”を届ける音質だけでなく、“安心”して長く使えることにもこだわった商品です。3年間の長期保証に加え、日常使用で付いてしまった細かな傷が時間の経過とともに修復され、目立ちにくくなる特殊な塗装を採用。また、過去に発生した不具合の分析を基に設計を見直し、品質・信頼性を高めました。



技術本部・品質保証本部と一体となり、“安心”して使える価値を形にできるよう、企画した商品です。



商品企画部
マネージャー

関連情報 史上最高の“WOOD”サウンドに挑んだ技術者のサイドストーリー ▶ P.8



ものづくり改革/環境への貢献
生産自動化の推進による
省人化

JVCケンウッド長野では、カーナビゲーションの組み立てや検査工程においてアームロボットを導入して自動化を進めることにより、省人化と工程の安定化を実現しています。さらに2025年度より第4世代の自動化ラインの稼働を開始し、省スペース化、メンテナンスの簡易化の実現にも取り組みました。



自動検査装置においては専門性のハードルも下がり、作業者の負担軽減にも寄与しました。



生産技術部

機構だけでなく、ソフトや回路など技術全般を理解したゼネラリストとして、自動装置の設計に取り組みました。



イノベーションの加速/従業員の活躍推進
新規事業のアイデアを生み出す
「COMミライ」

デザイン思考を軸としたワークショップ「COMミライ」を通じて、顧客視点で課題を捉え、新たな事業アイデアを創出しています。調査・発想・対話を重ねながら、参加者同士の共創により具体的な提案へと深化。人材育成と新規事業創出の両面から、持続的な価値創造を推進しています。



COMミライでの経験を通じて、物事の捉え方や対話が変わり、日々の業務に良い影響を与えていると感じています。一人一人の変化の積み重ねが、社会に柔軟に対応し、挑戦を続ける企業文化を醸成すると考えています。

イノベーションデザインセンター
(上)センター長
(下)センター長補佐



イノベーションデザインセンター

新規事業のアイデア創出では、多様な視点を掛け合わせることで発想が広がり、対話の重要性を実感しています。

イノベーションを実現する人材の育成

人的資本戦略

“働きがい”や“誇り”を持って働ける企業風土の醸成を目指して人的資本経営に取り組み、人材への投資と働きがいの向上を両輪で推進しています。

未来を創る人材の育成

■ マルチスキル人材とAI人材の育成

事業領域を横断して活躍できるマルチスキル人材の育成を推進しています。また、AI活用を通して業務改善と生産性向上を進め、新たな価値創造を支えるAI人材の育成も進めています。

■ 能力・キャリア開発を支援する

「JVCKENWOOD Career Design」

当社は、自らの経験を生かしながら「将来のありたい姿」の実現を支援するため、従業員が積極的に学べる環境を整えています。「人材要件定義書」に基づき、人材要件レベルの設定と育成計画の実行、キャリア面談、個別キャリア開発講座の受講支援、キャリアデザイン研修などを実施しています。また、定期的にキャリアデザイナーに相談できる体制も整備しています。

キャリアデザインを支援する組織

JVCKENWOOD Career Design(JKCD)センター

JKCDセンターでは、従業員が早い段階から自分のキャリアを考えられる環境を整えています。外部環境の変化も捉え、組織とより良い関係を築きながら成長できるよう、支援を行っています。



JKCDセンター長



JKCDセンター

若手や年代別のワークショップ、育児と仕事の両立支援やグローバル人材育成などをテーマにしたセミナー・勉強会など、実践的な内容で学び合い、成長を後押ししています。

働きがいの向上

■ ダイバーシティ&インクルージョン

多様性が尊重される組織風土づくりに継続して取り組むことで、イノベーションの創出と事業を通じた持続可能な社会への貢献を目指します。

- ▶ 女性活躍推進
- ▶ 男性の育児休業取得推進
- ▶ 同性パートナーを配偶者に含める人事施策



私も育児休業を取得し、子育てへの向き合い方や、働き方を考えるきっかけとなりました。この経験を生かしながら、従業員一人一人が生き生きと働ける職場づくりに取り組んでいます。



JKCDセンター マネージャー

女性管理職の対談や男性の育児休業などのインタビューはこちら

https://www.jvckenwood.com/jp/sustainability/social/human_capital/diversity-inclusion/interview/



■ 時間・場所にとらわれない柔軟な働き方

ワーク・ライフ・バランスを図りながら効率的に働くことができる制度の導入や環境の整備により、柔軟な働き方を実現します。

▶ スーパーフレックスタイム制度

コアタイムの撤廃、フレキシブルタイムの拡大、「非労働日」設定による週休三日制、中抜けルールなどを整備しています。

▶ ハイブリッドワーク

価値創造の拠点「Value Creation Square」を軸としてオフィス環境を整備するとともに、在宅勤務やサテライトオフィスなども柔軟に活用できる人事制度を整備しています。

コミュニケーションを活性化

価値創造の拠点「Value Creation Square」



フリーアドレスの執務エリア



打ち合わせができるコラボレーションスペース



イベントや交流の場にもなる大階段



リフレッシュできるラウンジ

健康経営

従業員一人一人が共に健康であることを重要な経営課題と認識し、「JVCケンウッド健康宣言」を発信して「全ての従業員が健康で生き生きと働くことができる職場環境」の整備を推進しています。



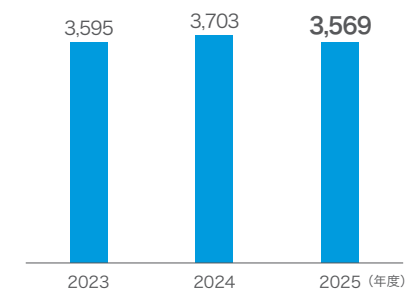
SPORTS
YELL
COMPANY
2026



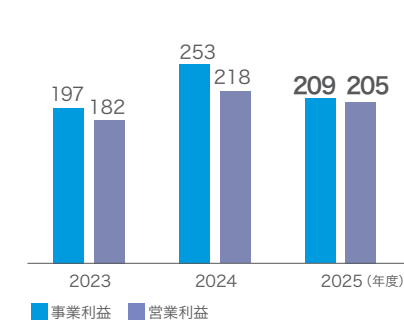
健康経営優良法人
2026
ホワイト500

数字で見るJVCケンウッドグループ ※国際財務報告基準(IFRS)ベース

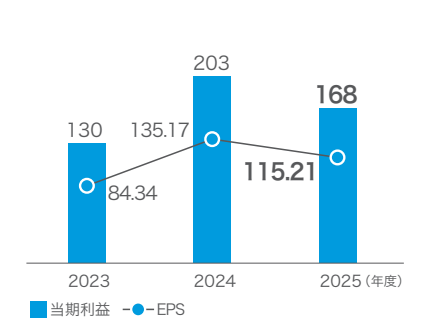
売上収益 (億円)



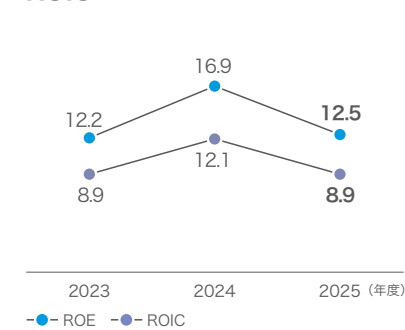
事業利益／営業利益 (億円)



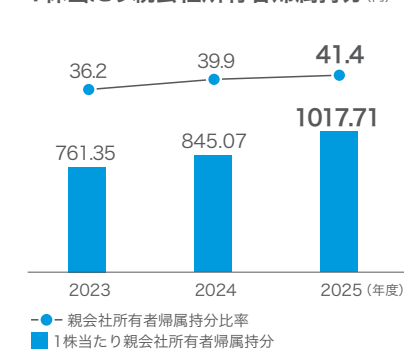
親会社の所有者に帰属する当期利益 (億円)／EPS (基本的1株当たり当期利益) (円)



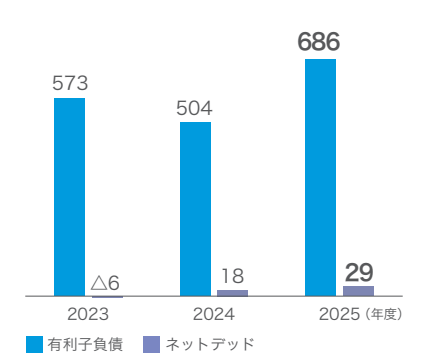
ROE (親会社所有者帰属持分当期利益率) (%) ROIC (投下資本利益率) (%)



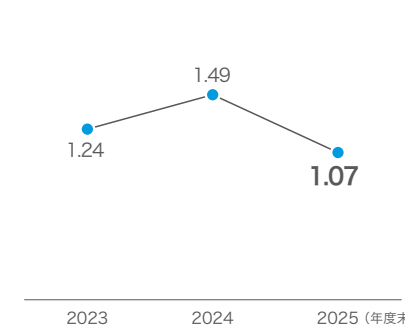
親会社所有者帰属持分比率 (自己資本比率) (%) 1株当たり親会社所有者帰属持分 (円)



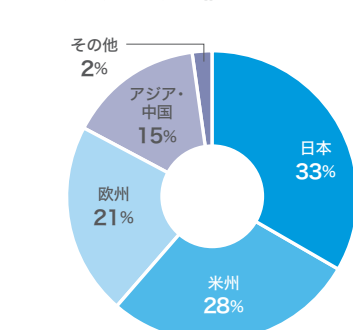
有利子負債／ネットデッド (億円)



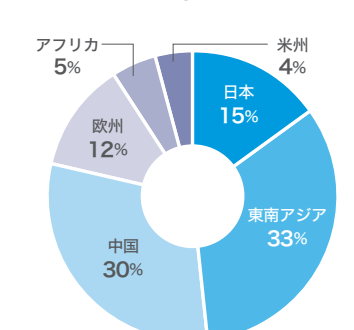
PBR (株価純資産倍率) (%)



地域別売上収益構成比 (2025年度)



地域別生産比率 (2025年度)



数字で見る働きやすさ

平均勤続年数

23.4年



年次有給休暇平均取得日数

16.1日



女性管理職比率

9.2%



育児休業等取得率 男性・女性ともに

100%



沿革



2026年はケンウッド創業80周年、2027年は日本ビクター創業100周年、2028年にはJVCケンウッド設立20周年を迎えます。
長い歴史の中で醸成された伝承すべきDNAを未来につなげるため、「技術の伝承～つぎとつぎを磨く～」をテーマに、2026年度から2028年度までの3カ年にわたり「JVCKENWOOD Anniversary」と銘打って周年記念活動を展開します。

会社概要

(2026年3月31日現在)

商号：株式会社JVCケンウッド (JVCKENWOOD Corporation)
代表者*：代表取締役 会長執行役員 最高経営責任者 (CEO) 江口 祥一郎
代表取締役 社長執行役員 最高執行責任者 (COO) 鈴木 昭
設立：2008年10月1日
資本金：136.5億円
従業員数：15,229名 (連結)
本社所在地：〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地

* 2026 年 4 月 1 日現在

国内・海外ネットワーク (2026年6月24日現在)



役員紹介 (2026年6月24日現在)

平子 裕志	社外取締役、取締役会議長
江口 祥一郎	代表取締役 会長執行役員 最高経営責任者 (CEO)
鈴木 昭	代表取締役 社長執行役員 最高執行責任者 (COO)
宮本 昌俊	代表取締役 副社長執行役員 最高財務責任者 (CFO)
鬼塚 ひろみ	社外取締役
平野 聡	社外取締役
折井 雅子	社外取締役
栗原 直一	取締役 (常勤監査等委員)
藤岡 哲哉	社外取締役 (監査等委員)
海老沼 隆一	社外取締役 (監査等委員)
小橋川 保子	社外取締役 (監査等委員)

野村 昌雄	専務執行役員 最高情報責任者 (CIO)
林 和喜	専務執行役員 モビリティ&テレマティクスサービス分野責任者
園田 剛男	常務執行役員 最高情報セキュリティ責任者 (CISO)、最高リスク責任者 (CRO)
村岡 治	常務執行役員 セーフティ&セキュリティ分野責任者
原田 久和	執行役員 セーフティ&セキュリティ分野責任者補佐、海外無線事業戦略担当、EF Johnson Technologies, Inc. 出向
佐藤 勝也	執行役員 セーフティ&セキュリティ分野責任者補佐、同分野 無線システム事業部長
関谷 直樹	執行役員 国内マーケティング本部長
佐藤 博之	執行役員 エンタテインメント ソリューションズ分野責任者、同分野 メディア事業部長
大浦 徹也	執行役員 最高技術責任者 (CTO)
中井 純子	執行役員 コーポレート部門担当、サステナビリティ推進室長
遠藤 勇	執行役員 コーポレート部門担当補佐
小松 彰	執行役員 モビリティ&テレマティクスサービス分野 アフターマーケット事業部長
山田 貴史	執行役員 モビリティ&テレマティクスサービス分野 OEM事業部長